



協会けんぽの財政状況

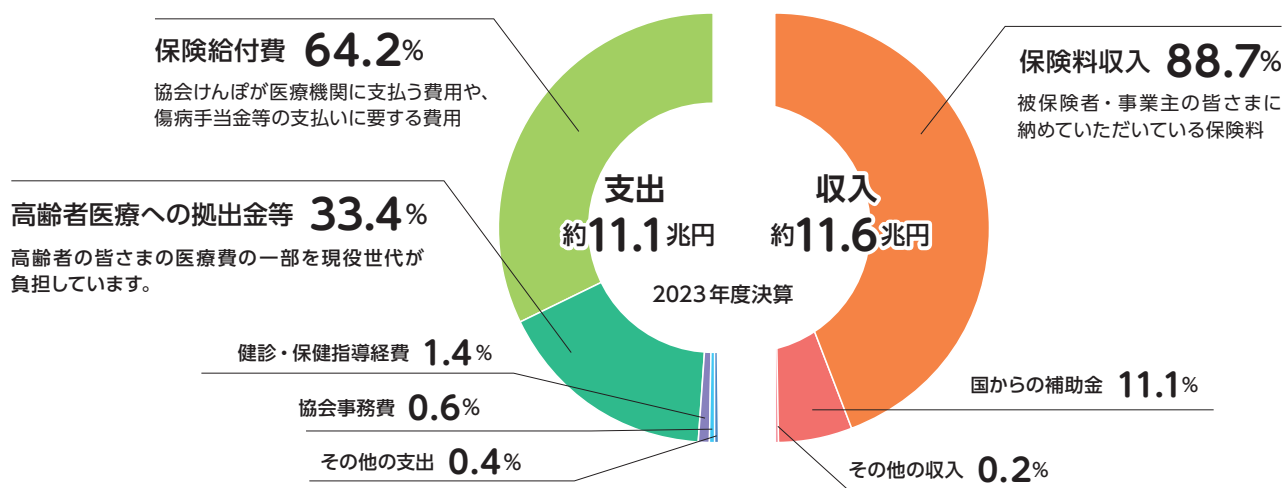
協会けんぽの財政の先行きは、不透明な状況です

協会けんぽの財政構造

協会けんぽの主な収入は、被保険者・事業主の皆さまに納めていただく保険料です。

また、支出の約3分の2は、皆さまが医療機関等を受診した際の医療費や各種給付金に使われています。

一方、約3分の1は、高齢者医療への拠出金等に使われており、重い負担になっています。



皆さまの保険料1万円あたりの使い道



加入者の皆さまの
医療費
約5,790円



加入者の皆さまが病気で
職場を休んだ際の手当金や
出産したときの給付金
約630円



高齢者の方々の
医療費 (拠出金)
約3,340円



加入者の皆さまの
健診・保健指導経費
約140円



協会けんぽの
事務経費等
約100円

2023年度決算の概要

2023年度の決算は収入が11兆6,104億円、支出が11兆1,442億円、収支差は4,662億円で前年度から343億円の増加となりました。

2023年度の収支は、収入・支出ともに前年度より増加しましたが、主たる収入である「保険料収入+国庫補助等」は2,995億円(2,577+418)の増加、主たる支出である「保険給付費+拠出金等」は3,351億円(1,993+1,358)の増加であり、支出の方が収入よりも伸びています。そのため、単年度収支差は、実質的には前年度より縮小しています。

■ 2023年度決算 医療分 (単位:億円)

収入	保険料収入	102,998 (+2,577)
	国庫補助等	12,874 (+418)
	その他	233 (+16)
	計	116,104 (+3,011)

支出	保険給付費	71,512 (+1,993)
	拠出金等	37,224 (+1,358)
	その他	2,705 (▲683)
	計	111,442 (+2,668)

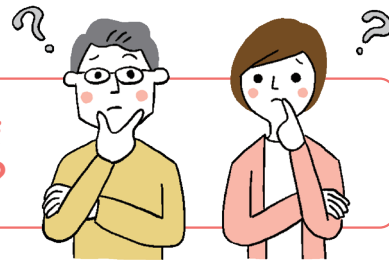
単年度収支差	4,662 (+343)
--------	--------------

※()内は、対前年度比

※ 支出の「その他」は上の円グラフの「健診・保健指導経費」「協会事務費」「その他の支出」の合計

Q

2023年度の決算は黒字額が増加しましたが、協会けんぽの財政は今後どのような見通しなのでしょうか？



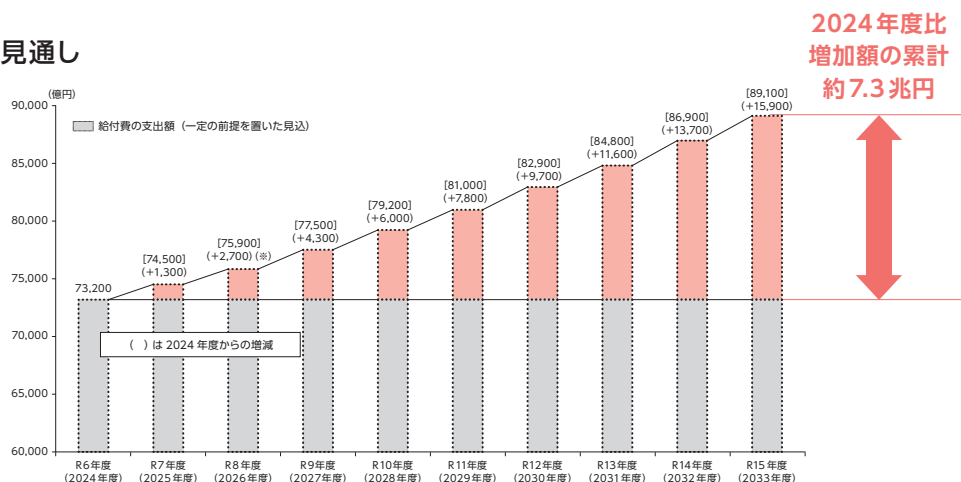
A

協会けんぽの財政を見通すにあたっては、協会けんぽ設立以来、医療費の伸びが賃金の伸びを上回るという財政の赤字構造が続いてきたことに加え、以下のような要因があることを念頭に置く必要があります。

- 今後の加入者の保険給付費は一貫して増加傾向となる見込みであり、2033年度までにおける2024年度比増加額の累計は約7.3兆円となる見込みであること
- 協会けんぽが拠出する後期高齢者支援金の2033年度までにおける2024年度比増加額の累計は約2.5兆円となる見込みであること

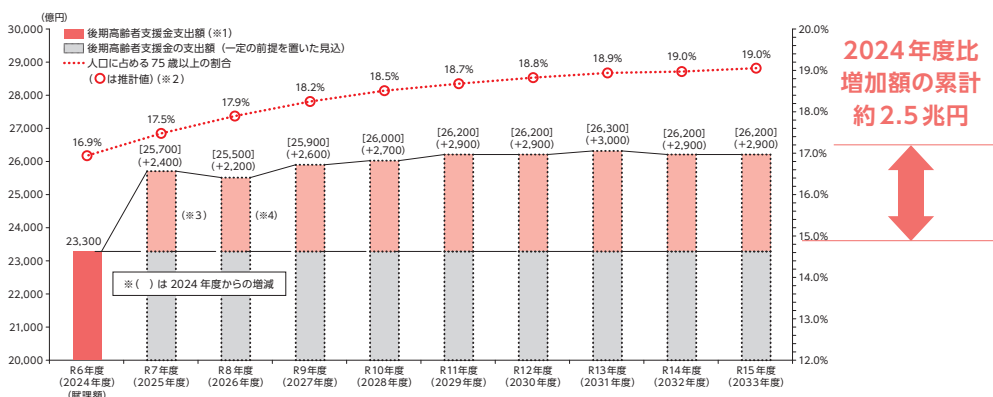
こうした状況を踏まえ、協会けんぽは、将来を見据えて、加入者の健康増進の取組や医療費の適正化をさらに推進するとともに、保険料率については、保険財政の持続可能性を確保するため、中長期的な視点から設定しています。

● 保険給付費の見通し



※ 2026年度以降の推計値は、2024年9月12日運営委員会資料2-2の試算(75歳未満一人当たり医療給付費の伸びは+3.2%、資金上昇率+1.6%)による推計値。百億円単位に四捨五入して記載している。

● 後期高齢者支援金の見通し



- ※1 後期高齢者支援金については、当該年度の支出額(当該年度の概算分と2年度前の精算分、事務費の合計額)である。
- ※2 人口に占める75歳以上の割合については、「日本の将来推計人口」(国立社会保障・人口問題研究所、2023推計)による。
- ※3 2025年度の後期高齢者支援金額は当年度の概算額(見込額)に前々年度の精算額(見込額)を加味している。
- ※4 2026年度以降の推計値は、2024年9月12日運営委員会資料2-2の試算(75歳以上一人当たり医療給付費の伸びは+0.3%、資金上昇率+1.6%)による金額であり、当年度の概算額のみで推計している。金額は百億円単位に四捨五入して記載している。